

「就職氷河期世代活躍支援ひろしまプラットフォーム事業実施計画」におけるKPI達成状況（第二ステージ）

1 不安定な就労状態にある方

【目標】正規雇用者について、2年間で3,200件以上を目指す。			
	取組概要	令和5年度	令和6年度
全体KPI	○正社員就職件数2年間で3,200件以上	○正社員就職件数 3,121件	
マッチング・相談による支援	<労働局> ○就職氷河期世代支援窓口を設置し、チーム支援を実施 ハローワーク広島（令和2年4月1日設置） ハローワーク広島西条（令和3年3月1日設置）	○正社員就職件数 3,121件	
	○氷河期世代を対象とした限定求人・歓迎求人の開拓・確保	○限定求人 79人 歓迎求人1,923人 限定求人424人 歓迎求人4,955人（R1.8～R6.3累計）	
	○各ハローワークにおけるセミナー・ミニ面接会の開催	○開催数541回 参加者数2,730人	
	○民間委託による企業説明会や就職面接会の実施、幅広い周知広報の実施による気運の醸成	○人材採用・活用を目指す企業を対象とした「オンライン企業セミナー」 （R5.7.19）参加企業数56社 ○オンライン企業説明会 （R5.10.21）参加企業数12社 参加者数9人 （R5.11.18）参加企業数11社 参加者数3人 ○ワークショップセミナー （R6.1.27）参加者44人 ○就職氷河期世代の応援、委託事業の周知広報を行うPodcast番組 8回配信	
	○就労体験を通じた業種・職種理解の推進のための職場実習・体験の実施	○受入可能事業所数31社 参加者数21人	
	<広島県> ○ひろしましごと館における就職支援等	○相談件数766件、就職件数32件（うち正規雇用15人）	
	○就職氷河期世代へのマッチング機会の提供	○「働きたい人全力応援ステーション」におけるマッチング支援 ・新規求職登録件数1,035人（うち就職氷河期世代423人） ・就職決定件数628人（うち就職氷河期世代270人（うち正規雇用102人）） ※R5年度就職決定件数628人にはR4年度からの継続分を含む	
	<経済産業局> ○民間事業者へ委託して実施する中小企業と就職氷河期世代の者とのマッチング支援	○合同企業説明会の開催 （就職氷河期世代、女性、若者、シニア等多様な人材を対象） ①R5.10.29（広島開催） 広島県内を勤務先とする企業数29社、参加求職者数31人 ②R5.11.18（岡山開催） 広島県内を勤務先とする企業数5社、参加求職者数49人 ③R5.11.25（広島開催） 広島県内を勤務先とする企業数25社、参加求職者数30人 ○個別支援（随時対応）事業者数16社 上記により、就職氷河期世代3人が就職内定	
<広島市> ○就職氷河期世代等のマッチングの促進	○「しごと相談カフェiroha」の実績 ・求職登録者数569人（うち就職氷河期世代279人） ・就職決定者数299人（うち就職氷河期世代148人（うち正規雇用135人））		
<呉市> ○「呉しごと相談館」における就職氷河期世代等の就職支援等	○就職氷河期世代等支援事業「呉しごと相談館」 ・相談者数（延べ人数）129人（うち就職氷河期世代90人） ・就職者数9人 （うち就職氷河期世代5人（うち正規2人、非正規3人））		
職業能力開発等に向けた支援	<労働局> ○求職中の非正規雇用労働者の方が働きながら受講しやすい夜間・土日やeラーニング等の訓練の提供	○求職者支援訓練短期短時間8コースの設定 （医療事務、介護、Excel、フォークリフト等） ○eラーニング5コースの設定 （Webデザイン）	
	<広島県・機構> ○県立高等技術専門校及び広島職業能力開発促進センターにおいて職業訓練を実施	○県：施設内開講コース6件 委託先開講コース62件（広島県内） ○機構：施設内訓練コース30件（うち企業実習付き4件）設定	
職場定着・企業向けの取組	<労働局> ○特定求職者雇用開発助成金・トライアル雇用助成金の積極的な活用	○特定求職者雇用開発助成金295件・トライアル雇用助成金73件 【35～55歳の申請件数】	
	○企業内での実習（OJT）と座学（OFF-JT）による訓練機会の提供を行うことで非正規から正規社員の転換を促進する「人材開発支援助成金」の活用	○人材開発支援助成金 申請30件 計画12件	

「就職氷河期世代活躍支援ひろしまプラットフォーム事業実施計画」におけるKPI達成状況（第二ステージ）

2 長期にわたり無業の状態にある方

		【目標】 就職活動に踏み出すための支援を行い、 <u>2年間で就職件数408件以上（サポステ利用者）</u> を目指す。	
取組概要		令和5年度	令和6年度
全体KPI	○就職件数2年間で408件以上	○就職件数 352件	
—	<労働局> 地域若者サポートステーション（以下「サポステ」という。）の取組強化		
相談・各種プログラム等による支援	○新規登録者数	○ 411人	
	○支援対象年齢が49歳までに拡大されたことを踏まえた相談体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>対応には高いコミュニケーションスキルと観察力が求められるため、人生経験豊富なスタッフが担当する。インターク面談を重視し、家庭環境や背景を丁寧に聞き取り、個々人の問題点を把握していく。（広島サポステ）</li> <li>利用対象者に安心感がある年齢の相談員を配置し、本人の人生経験にも基づき自尊心を肯定しながらの伴走型の支援を実施。来所が困難なケースに向けたオンライン面談、オンラインセミナーの実施、主に自治体の福祉部門、福祉センターや社会福祉協議会との連携を通して利用者が通所しやすい近隣の公共施設を使用したアウトリーチ面談を実施。自己理解促進のため氷河期世代も若年と一緒に参加できるセミナーを実施。（北部サポステ）</li> <li>インターク面談をしっかりと行い、そこから把握した本人の特徴や課題に応じ選定した相談員を中心に本人の実情に寄り添いながら個々に合わせた支援を実施。（ふくやまサポステ）</li> </ul>	
	○働く意欲向上等に向けたプログラムの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者を就職氷河期世代に限定し月2回のセミナーと座談会を実施。セミナーは9月から「ミニ企業説明&amp;相談会」として企業様にお越しいただき開催し職場見学や体験に繋いでいる。座談会では毎月テーマを変えて想いや考えを共有。本プログラムは登録者以外の参加も可能としている。参加者数：セミナー64人、座談会55人（広島サポステ）</li> <li>入口として職業適性検査、パソコン講習会、リクルート1DAYプログラムを提供。遠隔地においてはオンラインによる面談、セミナーを実施する。面談においては丁寧な聞き取りにより本人の意向も反映して適切な職場見学、職場体験、職業訓練を提案。当事者同士のフリートーク座談会を実施することで当事者同士での意欲を喚起。ハローワーク、労働局連携で就職氷河期関係の体験プログラムやイベント情報を共有、担当エリア自治体や支援機関との連携で利用者には有益な情報提供を実施して利用者に積極的に提案。（北部サポステ）</li> <li>個別面談を主軸に、課題に応じてセミナーやボランティア活動も活用し、他のスタッフの視点も交えながらチームによる支援を実施。ハローワークや派遣会社などとも連携し職業訓練や求人傾向などの情報提供を行う等、段階的な支援を行った。（ふくやまサポステ）</li> </ul>	
関係機関へのアウトリーチ	○福祉機関等への出張相談の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひきこもり支援センター、くらしサポートセンター、就労移行支援事業所や重層的支援の打合せに参加（東広島市、呉市）等福祉機関と連携し周知を行い、必要に応じて、ケース会議を実施。依頼があればアウトリーチ相談を実施。ハローワークの就職氷河期世代窓口とも連携を深め誘導している。アウトリーチ相談2件、ハローワークの氷河期世代窓口への誘導5件（広島サポステ）</li> <li>広島市地域支え合い課、くらしサポートセンターとの連携により必要に応じてアウトリーチ相談を実施。安佐北区福祉センター、安佐南区福祉センターへの出張相談を月に1度実施、庄原市社会福祉協議会への出張相談を3か月に1度実施。安佐北区地域支え合い課との連携により精神保健福祉家族会の研修会においてサポステの紹介・説明を実施。北広島町福祉課、安芸高田市福祉課、安芸高田・三次・広島市障害者基幹相談支援センターを通してアウトリーチを実施。（北部サポステ）</li> <li>尾道市みらいネット会議、三原市ひきこもり支援機関連携会でのサポステ周知、出張相談の情報提供。三原市、尾道市の各社会福祉協議会から依頼があった際、ハローワーク出張相談日を活用した相談を実施。福山市や社会福祉協議会が主催する地域関係者が集まる研修会や会議に積極的に参加し、関係構築によるサポステ周知を行った。（ふくやまサポステ）</li> </ul>	
職場体験の機会の確保	○職場体験等の受け入れ先の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までお世話になった受け入れ先や中小企業家同友会へ情報発信し連絡をいただいた企業へ個別訪問を行う。また「ミニ企業説明&amp;相談会」を通じて職場体験を推進している。R5年度新規受け入れ先15件（広島サポステ）</li> <li>利用者の希望する企業へのアプローチを実施。北広島町商工観光課を通じて北広島町内の企業への見学や職場体験の機会をいただいた。三次市役所、商工会組織、三次市雇用対策会議会員企業約2,000社にサポステ職場体験先協力の依頼をして協力を得ている。可部、三次、安芸高田、庄原の各ハローワーク求人に対して職場見学などの依頼を必要に応じてハローワークを通して行う。近隣の広島サポステとも連携を図り共同で体験や見学を実施。（北部サポステ）</li> <li>支援対象者の希望を聞きながらその内容に適した企業に直接アプローチ、ハローワーク連携によるアプローチで機会提供の促進を図った。（ふくやまサポステ）</li> </ul>	
職場定着・ステップアップ支援	○中・長期的なキャリア形成のための資格取得等技術向上支援に向けた個別相談や懇談会等の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>月、金曜日は19時まで開館時間を延ばし、土曜日も開館することで在職中の卒業生が利用しやすい体制を整えている。また、土曜日は継続した就労を意識し、実践的な内容のセミナーや座談会を実施している。セミナー及び座談会の参加者数：86人（広島サポステ）</li> <li>毎月第2土曜日をステップアップの日と定め、サポステ卒業生のみを対象に定着・ステップアップについての面談を実施。定着・ステップアップ対象者の来所できる日に合わせてスタッフの勤務時間をフレキシブルにし指定日以外での対応を実施。卒業生講話、卒業生座談会を実施。（北部サポステ）</li> <li>月1回土曜日に定着・ステップアップ対象者にセミナーや座談会を開催し、個別面談は平日夜と土曜日で実施。（ふくやまサポステ）</li> </ul>	
その他	○支援対象者等の家族を対象にした支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月第2土曜日に「ご家族なんでも相談日」を設け、年3回ご家族向けの座談会を開催する。座談会の参加者数：31人（広島サポステ）</li> <li>毎月1日、保護者相談日を設定して保護者相談を実施。保護者相談からの利用者登録に結びつける。保護者相談日以外にも要望に応じて保護者相談に対応する。個人情報取り扱いには十分注意を払い必要に応じて経過についても保護者と共有した。（北部サポステ）</li> <li>月に1回、家族向け見学・説明会を開催。それ以外にも家族相談の要望があれば随時対応した。利用経過により本人の状況に応じた家族面談の実施。（ふくやまサポステ）</li> </ul>	

「就職氷河期世代活躍支援ひろしまプラットフォーム事業実施計画」におけるKPI達成状況（第二ステージ）

3 社会参加に向けた支援を必要とする方

	【目標】 ひきこもり状態の人や家族などの状況に合わせた相談支援体制を整備するとともに、就労準備支援事業（生活困窮者自立支援制度）を全市町で実施する。		
	取組概要	令和5年度	令和6年度
全体KPI	○ひきこもり相談窓口を全市町（23市町）で明確化 ○就労準備支援事業（生活困窮者自立支援制度）を全市町（23市町）で実施	○ひきこもり相談窓口を全市町（23市町）で明確化済 ○就労準備支援事業実施市町 12市町	
支援対象者の把握・相談支援の充実	<広島県> ○支援対象者の把握・分析方法の検討	○市町が行う実態調査への支援実施	
	○市町における支援体制の充実 居場所づくり、相談体制、アウトリーチ機能を備えた生活困窮者自立相談支援事業等の充実	○PF設置済市町数 19市町。 ○自立相談支援機関による、「ひきこもり・不登校」に関する新規相談件数 178件 ○各ひきこもり相談支援センター（連絡協議会等）と連携し、市町でのひきこもり支援の充実・強化に向けた働きかけを行う。 【連絡協議会の開催】 西部センター（R6.2.6） 中部北部センター（R6.2.7） 【実務者連絡会議の開催】 ・R5.11.29 ○ひきこもり支援推進事業を実施する市町数 ・ひきこもり地域支援センター事業 1市 ・ひきこもり支援ステーション事業 5市町 ・ひきこもりサポート事業 1市町	
	○支援者の資質向上のための研修の実施	○自立相談支援機関の従事者研修を開催 参加者：自立相談支援機関職員・市町職員等（延99人） 開催状況：4回（R5.10.23、12.8、R6.1.22、2.27） ※12.8は「ひきこもり支援者人材育成研修」を合同で実施。	
本人の状況に応じた柔軟な働き方の機会の提供	<広島県> ○自立相談支援機関による就労支援や就労準備支援等の充実	○就労準備支援事業が未実施の自治体に対し、市町との会議の場を通じて取組の促進を図った。（第2ステージの終わる令和6年度末までに15市町が実施する予定となっている） ○事業未実施の市町に対し、国のコンサルティング事業の活用を促し、1町が就労準備支援事業の開始に向けて当事業を活用し、次年度から事業を開始する予定となっている。	
地域ネットワークの形成・活用	<広島県・労働局> ○市町の取組の好事例等の情報収集や情報提供	○これまで、市町PFの活動状況や取組の好事例等の情報を収集、自立相談支援機関の従事者研修等を通じた情報提供の拡充等により、市町担当者の理解を促し、市町PFの設置を進めてきた。 令和5年度は、労働局からPF未設置の市町を訪問するなどし、設置に向けての働きかけを行い、その結果4市町が新たに設置を行った。県においては、3月に各市町PFの状況を調査し、結果について集約した。これを踏まえ、次年度に未設置市町を含めて情報提供をすることとしている。	
	<広島県> ○従事者研修の開催	○「地域の支え合いコーディネート機能強化研修」開催 参加者：市町職員・社協職員等（20市町・114人） 開催状況：全4回（①Web、②R5.7.3・7、③R5.8.7・8、④R5.9.29） ※②・③：2会場（広島、福山）で各々開催 ○「ひきこもり支援者人材育成研修」 テーマ「地域におけるひきこもり支援について」～長期化問題・地域連携を中心に～ 対象者：保健所、市町のひきこもり支援担当部署、その他所属においてひきこもり支援に従事している者、もしくは今後従事する予定のある者 参加者：130人 R5.12.8 ○自立相談支援機関の従事者研修を開催（再掲） 参加者：自立相談支援機関職員・市町職員等（延99人） 開催状況：4回（R5.10.23、12.8、R6.1.22、2.27）	
	○市町担当者会議の開催	○各市町担当者向け説明会 ・R5.12.8の「ひきこもり支援者人材育成研修」に併せて開催 ・ひきこもり支援ステーション事業や県の支援等について説明	